

## 2022年電波伝搬実験と過去の思い出

JJ1SXA/池

去る5月29日、2年ぶりに、240のメインイベントの一つである、電波伝搬実験、十数局が参加して行われました、天候にも恵まれ、無事終了です、長距離移動の各局も事故無く無事帰還、うれしい限りです。

翻って、私は、過去には、遠方への移動をするのが倅いでしたが、今回は超近距離の「六道山公園」に移動でした。

モバイルに積むのは初めてのリグ、電源のつながりはOKだったが、何本もある同軸(以前はリニアアンプを運転席の下に置いて、同軸を繋いだり、色々切り替えてやっていた、そのことを失念していた)、自信をもってつないだのが間違っていました、時間ギリギリで気付きましたが、困ったものです、ロケーションは、本来なら申し分なしの場所だが、各局との相性が余り良くなかったようでした、それと、恥ずかしながら、リグの方では無く、自身の耳が肉体的に衰え、耳に挿しているプリアンプ(補聴器のこと)も余り役に立たず、オペレーターを急遽、SXBに替ってもらいました。

高齢での肉体的衰えをもろに感じた次第です、そのことが、遠距離移動ができなくなった原因でもあります、そんなこんなで、今回の伝搬実験は、散々な状態だったので、替わりに、遠距離に移動した過去の思い出を書くことにしました。

思えば、過去には結構遠方へ出かけたなど、色々の場面が走馬灯のように頭の中で駆け巡ります、その一部を書いて見ます。

秋田の男鹿半島「寒風山」移動の時の様子を再現すると、本番当日、長いQSBの中で、前日光からのキー局の呼び出しの音が聞こえ、喜んで応答するも返事無し、後で聞いたら、何度も呼んだが応答が無かったとのこと、こちらは、何度も応答したのだ、QSBのピークで呼び出しが聞こえ、応答した時はコントロール局の方ではQSBの谷間になり、こちらの信号が聞こえないという繰り返しだったようです。

サブで使用した21MHzでも、前日はバッチリつながっていた、宮城県牡鹿半島移動局とも当日は駄目、全く絶望的状态。

また、福井の「国見岳」に行った時は、実験本番中は何処ともつながらず、DXJ局の信号は受信したが、ブレイクには応答無く、誰とQSOしていたか覚えていませんが、自宅へ返って自宅から出ますとの内容は受信でき、自宅から出てくれば間違い無くつながるだろうと期待したが、とうとう繋がりませんでした。

その数年後の伝搬実験で、9エリアの局がここへ移動し、数局とQSOしている、場所の選定は間違っはいなかったが、運が無かった。

然し、何と言っても、回数を覚えていない程移動した佐渡ヶ島の「ドンデン山」、山荘に泊まってQRVした最初の頃、外部アンテナは設置せず、モバイルアンテナの同軸を長いものにつなぎ替え、2階の部屋まで延長して運用した。

両津市(現在は佐渡市)からの6mのQRVは珍しかったようで、SSB、CWともパイルの感

じでした、夕飯の時間で一時QRT、夜になって大分落ち着き、のんびりラグチューになった頃、アンテナはモービルに付けた5/8λのモービルホイップで、炬燵の中から運用だと言ったら、その様子はすぐに理解されず、説明に時間を取られました。

5月末の佐渡ヶ島の山の上は暖房が必用、初期の頃は、暖房は炬燵だった、炬燵に入って運用はわかるが、アンテナは5/8λのモービルホイップというのがイマイチ理解するのに説明を要したが、240の宣伝を兼ねて、モービルでの遠距離交信を目標としている我がグループは、究極のモービルアンテナを追求した結果が、この自作の5/8λのモービルホイップだということで納得してもらった、最初の頃は、一寸恥ずかしかったことや、木の枝等にぶつかるのが気になったりしたが、今はそんなことより、性能の良さが心配事は全て忘れさせてくれるとの説明に頷いてくれた、また、モービルからの遠距離交信の実験でここに来ているのだとも説明した。

佐渡ヶ島移動も何年か経った頃、地元のクラブが宿の2階の屋上にルーフタワーを備え付け、ポールも立っているし、ローテーターも自由に使って良いとの事で、宿に付くや、直ぐに3エレアンテナを組み、ポールに足場パイプの組み合わせ金具を何個か取付けて足場にし、4メートルのポールをよじ登り、先端にアンテナ設置、今思うと若かったんだなあ実感する、高い所は余り得意の方では無いが、無線をやりたい一心がそれをやらせた。hi

風呂も済ませ、夕食が終われば無線だ、両津市サービスも最初の頃は珍しくて、パイル状態、SSBはSXBの担当、CWはSXA担当、時には交代で、夜遅くまで無線三昧、翌日は早朝にアンテナ撤収、後はモービルで伝搬実験だ、そんなのを数年続けました。

ある時は、外は濃霧で視界はほぼゼロという時もあり、無線以外にやることは無かったが、eスポも開け、途切れることなく、深夜までQSOをしましたが、翌日の伝搬実験の事もあり、丁寧に断りをしてQRTなどということもありました。

また、夜の大雨、大風で、翌朝のアンテナ撤収をどうしようかと悩んだこともありましたが、翌朝は、からっと晴れ上がり、アンテナ撤収も難なくできました。

まあ、佐渡ヶ島は、私の生まれ故郷ではありますが、実家に立ち寄るのは数時間、何が何でもドンデン山でした、最初の頃は、母も存命(父はとっくに他界)でしたが、それでも滞在は数時間、母が亡くなってからは、フェリーから下船すると、取りあえず直行で、墓参り、それが済めば、直ぐにドンデン山へだ、ある時は、故JH1WRU藤田OMと我ら夫婦の3人で移動したこともあった、今は昔の楽しい思い出です。

これ等の他にも、結構遠い所へ行きました、岩手郡雫石町の「岩手休暇村網張温泉スキー場」、二本松市「あだたら高原」等が遠い方でしょうか、その他近いと言っても、六道山公園に比べれば、はるかに遠い、いわき市の「湯の岳」、小諸市高峰高原の「車坂峠」、伊豆市西伊豆スカイライン「達磨山」、下高井郡山ノ内町「志賀高原・渋峠」、福島耶麻郡の「母成高原島尻スキー場」等々、結構色々の所へ行き、その都度、苦い思いをしたこと、思ったよりも楽しかった所、思い出は多いが、いま再び行けるような体力気力はありません、残念ながらです。hi

(2022年6月記)

電波伝搬実験・佐渡ヶ島移動の懐かしのスナップ



今は亡き友、JH1WRU藤田OMと我ら夫婦の3人で移動したことも



山荘2階の屋上に設置されたルーフタワーに立つ4mのポールにアンテナを設置、このアンテナは3エレだが、翌年から4エレに